



年 頭 所 感

PC 建築部会長

山田 恒太郎

安藤建設株式会社 代表取締役社長

平成 22 年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様には平素より PC 建築部会活動に多大なご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、米国の金融危機に端を発した世界同時不況から 1 年、世界は未だ嵐の中にあり、景気回復の兆しが見えない状況にあります。我が国に於いては、歴史的な政権交代が行われ、新しい国づくりに向けてスタートしましたが、多くの課題に直面して有効な対策が打てず、景気の先行き不透明感が漂っています。

こうした中、建設市場は民間設備投資の冷え込みや、公共工事の削減等によって大幅に縮小し、過去に類を見ない大変厳しい状況にあります。一日も早い景気回復を願うとともに、この克服に向けて業界全体で叡智を最大限に結集し、総力で乗り越えなければならないという思いを強くしております。

このような状況の中で、我々 PC 建築部会は、PC 工法による集合住宅をはじめとする各種建築物の高品質、高規格を目指した技術の研鑽をさらに推進すること、そして地球環境保護の観点からも、工業化建築を通して豊かな社会の実現に寄与していくことが重要な使命であり、責務であると考え、活動を展開しております。

昨年 6 月からスタートした国外 PC 部材品質認定制度は、中国 4 工場からの申請を受け、現在審査が終了し本年 3 月にその可否が判定されるころまでできました。今後もさらに認定規程等を見直し、国内生産部材同様に国外生産部材の品質向上に務めてまいりたいと思えます。

また、日本建築学会が行う J A S S 10 の改定作業に対し、部会に「改定対応特別委員会」を設置し、PC 工法の専門委員による検討を開始しました。同時に壁式鉄筋コンクリート造設計・計算規準作成小委員会等にも参画し、活動の支援をしています。

さらに、昨年より緊急な課題として PC 工法による耐震改修を検討してまいりました。高品質で高耐久性を有する PC 部材の活用にて、短工期で環境性能が高い工法として採用が広がるよう、今般、会員各社の持つ技術を結集し、提案用ガイダンスをまとめました。今年から関係主体に対し、積極的な展開を考えております。

研究開発としては、高強度コンクリートに打込まれたタイルの追随性、WPC 構造住宅高度利用促進技術の開発等のテーマについて大学と連携して取り組み、本年 3 月末にはその成果について報告できると思えます。

このような活動を通して、会員の皆様と共に業界の地位向上に向けて邁進する所存でござ

いますので、なお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

建築業界を取り巻く環境が目まぐるしく変化する中で、対処しなければならない課題が多くございますが、この状況を乗り越え確かな展望が実感できる年となりますことを心より祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。